



SSKW親の会だより 増刊号

親の会会報

2022年9月発行
No.122



Inclusion Setagaya

世田谷区手をつなぐ親の会



条例制定に思うこと

会長 渡部 伸

娘の代理投票

■先日の参議院選挙に、娘を連れて行きました。娘は話すことはできますが字は書けません。そのため代理投票をお願いする必要があります。投票日当日だと職員の方も落ち着かず、受け入れが難しいかと思い、いつも期日前投票に行っています。そして、事前に日時と投票所を、毎回選挙管理委員会に連絡していました。

■今回も電話をしてみたところ、「どの投票所にも係員がいますので、連絡しなくても大丈夫です。安心して投票してください」と初めて言われたのです。

■会員の方との間でも投票の話題が出るのがよくあるので、知的障害者が投票に行くことは増えてきたのだと思います。それが積み重なった結果、代理投票も当たり前になってきて、事前の連絡がなくても対応できるようになったのだと、大変うれしく感じました。

■投票所で離れたところから様子をうかがっていたのですが、係の方お2人が来て娘を丁寧に誘導し、「だれに投票したのか、秘密は守られます」と優しく声をかけてくれていました。ただ、娘は投票した人の名前を「〇〇さんお願いします!」と大きな声で伝えていましたが。



共生社会のために親の会ができること

■話は変わりますが、「世田谷区障害理解の促進と地域共生社会の実現をめざす条例(案)」が検討されていて、来年1月の施行に向けた準備が進められています。

■“障害理解”と言うと、「障害を理解しなければいけないなんて、押しつけがましいのでは…」と感じる

方もいるかもしれません。

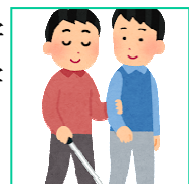
■でも、“理解”ではなく“知る”ことならできるのではと思います。町の中のどこにでも、さまざまな障害



のある人が普通に存在しています。自分や家族に障害者がいない人も、その現実を知りたくなれば、自然に障害理解は広がっていくのではないのでしょうか。

■選挙管理委員会の対応が変わったのも、障害者がいることを知ったから、選挙に来ることが当たり前になったからだと思います。

■今回の条例では障害者団体にも責務が課されています。この責務を果たすために、可能な限り協力していきたいと考えています。親の会では、知的障害の特性を伝えるために「セータとガーヤの気持ち伝え隊」というチームが啓発活動を行っています。行政のみならず、ぜひ我々のような当事者団体をうまく活用してください。特に、小中学校の児童、生徒さん向けに、知的障害を含む多様な障害を知る機会を増やしていただければと思っています。



■私たちが生活している世田谷区が、さまざまな方が共に生きる社会になることを、この条例の制定で期待したいと思います。



親の会会報 No.122 コンテンツ

P2 : (社福)せたがや檜の木会
中長期計画の策定にあたって

P3 : (一社)つながりラボ世田谷

P4 : こぼれ話

保護者たちの思い～教育部の関心事～

P5～7 :

こぼれ話 日々の生活の中で
(会員・本人のエピソード)

P8 : 2022年度賛助会員

